

令和 6（2024）年度卒業生 学習成果アンケート結果

本学現代子ども学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める「保育者としての使命感」「『あそび』を通した保育を実践できる力」「社会に貢献できるコミュニケーション力・課題解決力」「ICT（情報通信技術）活用力」といった資質・能力を、「学習成果アンケート」によって把握してきた。

以下、令和 5（2023）年 4 月に入学し、令和 7（2025）年 3 月に卒業した令和 6（2024）年度卒業生の学習成果を中心に述べる。

「学習成果アンケート」は、学内情報ポータルサイト〔KCN（Keiai Campus Navigator）〕を活用しスマートフォンを用いて回答させている。選択肢の「よくできている」「できている」を統合し「あてはまる」群、「あまりできていない」「できていない」を統合し「あてはまらない」群とした。表中の人数と％は、「あてはまる」群の数値を示す。

令和 5（2023）年度入学生から、前年度まで 4 つの資質・能力に設けていた下位カテゴリーを廃止し、4 つの資質・能力が明確に評価できるよう質問項目の見直しを図った。なお、「あそび」を通した保育を実践できる力」「ICT（情報通信技術）活用力」の項目については、1 年生に回答を求めるには高度すぎる項目もあるが、学習成果の評価を継続的（入学時・進級時・卒業時の 3 回）に実施し、達成状況の推移を把握すること、あるいは、学生に自己評価する際に卒業までの達成目標として意識させること等をねらいとし、あえて実施している。

令和 6（2024）年度卒業生の学習成果アンケート結果について、「保育者としての使命感」について述べる。入学時から「保育者としての使命感」の保育者としての社会的使命に関する項目（項目 1～3）や自己管理に関連する項目（項目 6～8）、及び「社会に貢献できるコミュニケーション力・課題解決力」のコミュニケーション・スキルやチームワークに関する項目（項目 1～5）は評価が高い。教育者・保育者を目指すという明確な意思と自覚を持っており、思いやりを持って他者と協働することができることと自己評価していることがわかる。これは、本学のアドミッション・ポリシー①「保育者を目指す明確な意思をもち、生活面・健康面での自己管理ができ、学び続けることのできる人」や、同③「対人関係能力に優れ、他者と協働し思いやりをもって子どもたちと関わることのできる人」と合致している。一方、「保育者としての使命感」の項目「資格を意欲的に取得している（認定絵本土、認定ベビーシッターなど）」については、入学時は 55％だが、卒業時には 84％となり、在学中にキャリア形成に対する意欲が高まった結果であると思われる。

「『あそび』を通した保育を実践できる力」については、入学時からある程度高く、本学のアドミッション・ポリシー②「日頃より保育に関する事柄に広く関心をもち、

子どもの成長・発達について理解を深めようとする態度をもっている人」と合致している。保育知識に関する項目（項目1，3）と保育技術に関する項目（項目5～11）については、卒業時に大きく能力を伸ばしており、授業や実習を通して子どもの発達段階や指針・要領に関する理解が深まり、保育者に必要な知識・技術が修得できているものとする。さらに、項目11の「子どもの発達段階や興味・関心に合わせた絵本の選定や読み聞かせができる」が入学時の70.7%から卒業時に96%と大幅に増加していることについては、「認定絵本士」取得をめざす学生が高い意識で取り組んでいる成果であると考えられる。

「社会に貢献できるコミュニケーション力・課題解決力」のリーダーシップに関する項目である「様々な意見を取りまとめ、よりよい方向を示すことができる」や課題解決力に関する項目である「自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えることができる」については、卒業時にそれぞれ確実に能力を伸ばしている。令和2（2020）年度から、全授業科目において、学習成果の一つである「コミュニケーション・課題解決」と各授業科目の内容との関連についてループリックを作成してシラバスに示し、より明確に評価できるようにしている。グループ・ディスカッションにおいてグループの意見をまとめ発表したり、テーマに沿って自分の主張を論理的にまとめ、他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーションを行ったりする機会を増やし、教員がより具体的なフィードバックをしていくことで、「社会に貢献できるコミュニケーション力・課題解決力」の資質・能力育成を目指してきた。この資質・能力は、令和3（2021）年度入学生カリキュラムから開設された、初年次教育としての「敬愛スタートアップゼミ」（1年前期）での学びによっても育成されるものとする。さらに行事や委員会活動、クラス活動での協働により育まれるのではないかと考える。

アクティブ・ラーニングの推進についても、これまで教職員対象のFD・SD研修において複数回取り上げる等、強化している。

ICT活用については、「Excel(表計算ソフト)を使える」「PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使ってプレゼンテーションができる」の項目で、入学時より卒業時の方がかなり高くなっており、基礎科目「情報処理」（1年通年）や専門科目「教育方法」（2年半期）等による教育の効果がみられる。また、オンデマンド授業の実施を通して、Google Driveなどのクラウド・サービスや学内情報ポータルサイト〔KCNC（Keiai Campus Navigator）〕の利用に習熟し、各スキルが高まったものと思われる。今後も一層のICT技術活用の可能性を目指す。

令和5年度入学者 学習成果アンケート 入学時・卒業時結果比較

項 目		あてはまる(%)		割合の差	P値	判定
		入学時(n=123)	卒業時(n=100)			
保育者としての使命感	1. 保育者としての社会的使命を自覚し、保育に対する高い志や情熱を持っている	92.7	96.0	3.3	0.44	
	2. 子どもの最善の利益を考慮することができる	95.9	98.0	2.1	0.62	
	3. 保育者をめざす者として、その場にふさわしい身だしなみを整えている	94.3	99.0	4.7	0.13	
	4. 保育者をめざす者として、その場にふさわしい言葉遣いができる	87.0	94.0	7.0	0.13	
	5. 自身の健康管理ができる	86.2	88.0	1.8	0.84	
	6. 提出期限や集合時刻、規則などを守ることができる	91.1	84.0	-7.1	0.16	
	7. 自ら考えてその場にふさわしい行動ができる	95.1	95.0	-0.1	1.00	
	8. 自己の行動を振り返り改善できる	90.2	95.0	4.8	0.28	
	9. 計画性を持って行動できる	73.2	71.0	-2.2	0.83	
	10. ニュースを見たり読書をしたりして、保育に関する社会的動向や最新の情報を得ようとしている	60.2	72.0	11.8	0.09	
	11. 資格を意欲的に取得している（認定絵本士、認定ベビーシッターなど）	55.3	84.0	28.7	<0.001	**
「あそび」を通した保育を実践できる力	1. 子どもの年齢に応じた心身の発達段階や発達障害等の特性について理解している	73.2	96.0	22.8	<0.001	**
	2. 子どもの発達、成長における環境の重要性を理解している	89.4	98.0	8.6	0.02	*
	3. 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を踏まえ、自発的で主体的な子どもの遊びの重要性について理解している	79.7	94.0	14.3	<0.01	**
	4. 子ども一人一人の個性や性格を理解し、興味関心を尊重できる	91.9	98.0	6.1	0.09	
	5. 個々の子どもに気を配りながら、全体の動きをみることができる	76.4	89.0	12.6	0.02	*
	6. 子どもにわかりやすいような話し方ができる	81.3	94.0	12.7	0.01	**
	7. 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの気持ちを大切にしたい援助ができる	86.2	98.0	11.8	<0.01	**
	8. けんか等の場面お互いに思いを主張し、互いの気持ちを理解できるような援助ができる	71.5	90.0	18.5	<0.01	**
	9. 子どもの興味・関心を踏まえた、様々な遊びや活動の援助ができる	78.0	94.0	16.0	<0.01	**
	10. 子どもが歌や手遊び、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう援助ができる	78.9	93.0	14.1	0.01	**
	11. 子どもの発達段階や興味・関心に合わせた絵本の選定や読み聞かせができる	70.7	96.0	25.3	<0.001	**
社会に貢献し得るコミュニケーション力・課題解決力	1. 自ら進んで挨拶ができる	95.1	98.0	2.9	0.43	
	2. 他者の意見を受け入れ、相手の立場に立って物事を考えられる	94.3	97.0	2.7	0.52	
	3. 他者と良好な人間関係を築くことができる	95.1	96.0	0.9	1.00	
	4. 組織や集団の一員として自分の役割を自覚し、求められる行動ができる	91.1	94.0	2.9	0.57	
	5. 報告・連絡・相談ができる	93.5	93.0	-0.5	1.00	
	6. 目的を実現するために積極的に自分の意見を言う	77.2	85.0	7.8	0.20	
	7. 様々な意見を取りまとめ、よりよい方向を示すことができる	78.0	91.0	13.0	0.02	*
	8. 全体を見渡し、臨機応変に対応できる	85.4	90.0	4.6	0.40	
	9. 反省や経験を生かせる	87.8	97.0	9.2	0.02	*
	10. 自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	79.7	93.0	13.3	0.01	**
	11. 自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えることができる	68.3	85.0	16.7	0.01	**
	12. 多様な意見を統合してアイデアを生み出せる	78.0	89.0	11.0	0.05	*
ICT（情報通信技術）活用力	1. Word（文書作成ソフト）を使って文書が作れる	73.2	77.0	3.8	0.62	
	2. Excel（表計算ソフト）を使い、統計表の作成や計算ができる	39.8	56.0	16.2	0.02	*
	3. PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使ってプレゼンテーションができる	53.7	81.0	27.3	<0.001	**
	4. SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる	89.4	96.0	6.6	0.11	
	5. 「情報リテラシー」の意味を理解している	73.2	89.0	15.8	0.01	**

（注） P値は小数第3位を四捨五入し、0.01未満は <0.01、0.001未満は <0.001 と表示。「判定」は、* p < 0.05、** p < 0.01 を表す。